

第4学年2組 音楽科学習指導案

公開授業Ⅱ 場所 音楽室 指導者 上原 正士

1 題材名 見つけた！郷土の音楽の魅力（旋律づくり）

中学年の教科書では、リコーダーや鍵盤ハーモニカを用いて1～2小節程度の短い旋律をつくり、友達がつくったものをつなげて取り組む音楽づくりが掲載されている。このような音楽づくりは、簡単に組み立てて達成感を味わいやすいが、子どもが表現したい思いや意図をもって試行錯誤していくことは起こりにくい。本学級に目を向けてみると、教師等の周りの人の勧めではなく、子ども自身が取り組みたいと強く思ったときに、追求していく姿を見ることが出来る。子ども一人一人がつくりたい音楽のイメージをもち、音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さに着目しながら音楽づくりのたのしさを味わってほしいと願う。

そこで、本題材では、わらべうたに親しむことから始める音楽づくりを提案する。わらべうたを繰り返し歌ったり遊んだりするうちに、オリジナルの歌詞や節を発想していく姿を取り上げ、熊本の魅力を紹介するCMソングづくりへと発展させていく。そして、反復や変化を用いることを音楽づくりの条件として設定し、表したいことに合うフレーズのつなげ方を試行錯誤していく姿を生み出す。その中で友達と意見を交わし、発想を得たり、表現したいことを更新したりしながら、音楽の諸要素の働きが生み出すよさや面白さに気付くことができると考える。

2 題材について

- (1) 本題材では、わらべうたに親しんで音楽づくりをする活動を通して、音楽の仕組みについて、それが生み出すよさや面白さと関わらせて感じ取り、表現したいことと音楽的な工夫を関連づけながら音楽づくりをたのしむことを目標としている。

今回は、「熊本の魅力を伝えるCMソング」を、紹介したい事柄が同じ子ども同士でグループをつくって音楽づくりに取り組むようにする。音楽づくりの条件に、aa'の一部形式を取り入れること、黒鍵を用いること、歌えることを設定しておくことで、表したいことに合う即興的な音楽づくりを基にしながら、反復や変化等の音楽の仕組みに着目してつくっていく。aa'の一部形式は、構成する2つの小楽節が多少異なる形式で、動機の反復と終止の変化により、1つの独立した楽曲となることのできる規模としての最小のまとまりである大楽節の1つである。

題材の導入では、わらべうた「あんたがたどこさ」で繰り返し遊ぶことと、地域の商店のCMソングを聴くことを通して、音楽づくりの条件と「鍵盤楽譜」の書き方を理解できるようにするとともに、つくる音楽の見通しをもつことができるようにする。特に、「鍵盤楽譜」については、黒鍵の配置との関連があることがわかるように、教師が演奏する様子と鍵盤楽譜を連動させて提示する。中間発表では、作品をよりよくするためのアイデアとして、反復の用い方に着目できるように、変化が多くて印象づかないという困り事を取り上げるようにする。

- (2) 「聴いてね！すてきな30秒」では、音域を分担してグループで音楽をつくることで、音の重ね方の工夫を取り入れた音楽づくりを経験した。本題材では、音楽の形式に着目しながら思いや意図に合った音のつなげ方を追求していくようにする。音のつなげ方を扱う本題材での学習は、曲の構成に着目しながら鑑賞・表現する学習へと発展していく。

- (3) 本単元に関する子どもたちの実態は次の通りである。（調査人数35人）

- ① 音楽づくりの授業が好きな子どもが多いが、難しいと感じている子どもが6人いる。
- ② 自分で考えた旋律を五線譜で表すことはほとんどの子どもにとって難しい。

3 単元の見直し

- (1) 音のつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さに気付き、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 音のつなげ方の特徴を感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 音楽の仕組みを用いて音楽をつくることに興味・関心を持ち、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組む。

4 指導計画（7時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
事前	0 わらべうたに親しむ。	○ 「あんたがたどこさ」で遊ぶ中で、歌詞や節を変える様子を捉え、音楽の要素を変えるたのしさを味わえるようにする。	
1	1 学習の見通しをもつ。	○ aa' の一部形式でつくられている地域の商店の CM ソングを鑑賞し、用いられた音楽の仕組みとそのよさに気付くことを通して、同じ形式で音楽づくりに取り組むという見通しをもてるようにする。 ○ 総合的な学習の時間「発信しよう！熊本の魅力」における、11月の社会科見学等の写真を提示し、熊本のよさを伝える CM に何を取り上げるかを考え、歌詞をつくることのできるようにする。	【思】鑑賞した曲に用いられている反復や呼びかけとこたえなどのよさに気付き、音楽づくりの見通しをもつことができる。 (観察・振り返り)
2 6	2 伝えたいことに合う音楽表現を追求する。	○ 楽譜は、鍵盤上に印を置いて表現する「鍵盤楽譜」を用いることで、旋律の動きを視覚的に捉えることができるようにする。 ○ つくった作品は共有フォルダに随時アップロードできるようにすることで、演奏に進んで取り組めるようにする。 ○ 特に本時の学習では、7・8小節目の旋律を比較することを通して、曲の最後をどのようにすると思いに合う音楽になるか考えて自分たちの音楽を見直すことができるようにする。(本時5/7) ○ 適宜自分の音楽をつくり直すようにして、新たに発想したことを取り入れて作品を仕上げるようにする。	【技】思いや意図に合った音楽の仕組みを用いてつくっている。 (観察・振り返り) 【知】音楽の仕組みが生み出すよさや面白さなどを理解している。 (観察・振り返り) 【思】どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるか、思いや意図をもっている。 (観察・振り返り)
7	3 題材全体を振り返る。	○ 自分たちの作品の紹介文を書かせることで、表現とそのよさ、学びの過程を振り返らせ、本題材での学びを自覚できるようにする。	【主】音楽の仕組みを用いて音楽をつくることに興味をもっている。 (観察・振り返り)

5 本時の学習

(1) 目標

それぞれの班の7・8小節目の旋律を比較することを通して、曲の最後をどのようにすると思いに合う音楽になるか考えて、自分たちの表現を工夫することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前回の授業までで、グループでの音楽づくりが一応出来上がったから、みんなに聴いてほしいな。特に、伝えたいことを反復させているところに注目してほしいな。 ○ かずきくんたちは、印象に残る終わり方にしたいけれどもなかなかイメージに合う曲にならないんだな。よし、中間発表をしてみんなの終わり方を見比べてみよう。
15	2 作品を鑑賞し、つなげ方の特徴について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鍵盤楽譜で見ると、音の高さが7小節目と8小節目でも同じように動いていることがわかるね。 ○ ももこさんたちの曲は、歌詞にとリズムがピッタリ合っているし、楽しい感じがしていい曲だな。 ○ そうそう！2回反復した後、ちょっと変えていて、2段目も同じ反復が来るけど、後半のところ、曲が終わるっていう感じがする音を選んでいて、本当の曲みたいな感じがするよね。 ○ みんなの終わりの音を見比べると、♭ソで終わる作品が多いみたい。これってどういうわけだろう？ ○ 終わった感じを表すには最後が♭ソの音になるといいみたい。他の音だとどうなんだろう。はるきくんたちの作品は♭ラで終わっているけど、続く感じがしない？ ○ 他の音だとどんな感じがする終わり方になるんだろう。
20	3 自分たちの音楽をつくり直す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通潤橋のCMをつくっている私たちには、どんな終わり方が合うのかな？ ○ 鍵盤楽譜で見ると、まだ試していない音の並びがあるよ。谷みたい一回下がって上がるような終わり方もいいかもしれない、演奏してみようよ。 ○ じゃあ、1段目の終わり方はこんな感じはどうか。2段目は、ちょっと変えてこうしたらどうか。 ○ いいね。1段目の終わりは、続く感じのする終わり方で、2段目の終わりは、本当に終わりっていう感じのする終わり方になっていて、曲っぽい感じになってきた。 ○ でも私たちの作品って続く感じの方が合うんじゃない。
5	4 本時を振り返って次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日は、曲の終わり方について考えました。私たちは、いい反復はできていたけれど、終わり方はまだ熊本城っぽくないので、次の時間は、1（♭ソ）の音で終わることと堂々とした感じのする終わり方を考えたいです。



反復や変化等の音楽の仕組みを取り入れながら熊本の魅力を伝える CM ソングをつくってきた子どもたち。もっとよくしたいという思いをもって本時の中間発表に臨みます。相互鑑賞を通して、全体のまとまりがある音楽にするためのつなげ方の工夫について考えていきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 曲の最後の部分をどのようにすると印象に残る音楽になるのかわからないという困りをもっている子どもに発言を促し、以下の課題を設定することで、曲の終わり方に着目しながら相互鑑賞するという見通しをもたせる。

印象に残る曲にするためには、曲の最後の部分をどのようにするとよいだろうか。

- 鑑賞は、アップロードされた音楽を再生する形式ですすめるようにする。また、大型テレビで曲に合わせて小節ごとに鍵盤楽譜を提示することで、複数の班の旋律の特徴を比較しながら鑑賞できるようにする。
- 7・8小節目の鍵盤楽譜を提示し、出された気付きや感想を書き込み、音楽の諸要素とそのよさを捉えることができるようにする。特に、音の高低に関する気付きが出されたときは、高低のつながりがわかるように、音符を線でつないで旋律の流れを視覚的に捉えることができるようにする。
- ほとんどの班が♭ソの音で終わっていることに気付くことができるよう、8小節目の楽譜を縦に並べて提示する。そして、「他の音で終わるとどうなるのだろう」という発言を捉えて、♭ソ以外の音で終わる終わり方について試すことができるようにする。
- 最後の音を変えてみることでどのように感じた問い、音ごとに生み出される感じを交流することで、つくり直す活動の検討材料になるようにして、以下の課題を設定する。

【教材・教具】

- 鍵盤ハーモニカ
- 拡大楽譜
- タブレット端末
- 大型テレビ

自分たちの作品の終わり方は、どのようにするとイメージにピッタリになるだろうか。

- 机間指導では、用いた終わり方の工夫について問うことで、そのよさや面白さに気付くことができるようにする。
- つくりたい曲のイメージはもっているが、どのような終わり方にしたらよいかわからないと感じている子どもがいたときには、最後の音を変えることを促したり、他の班の8小節目の演奏を提示したりすることで、イメージに合うものを選ぶことができるようにする。
- 表したいことや取り入れたい工夫が異なってきた場合は、個人やペアでの音楽づくりを進めていくことを認めるようにすることで、思いや意図を音楽に反映することができるようにする。
- 振り返りの記述に、曲の終わり方の表現の工夫をどのように取り入れるとよいかについて、表したいことと関連づけて書いている子どもに発言を促して、本時の学びを自覚できるようにする。

【評価】

フレーズの最後をどのようにするとよいか考えて、自分たちの表現を工夫することができる。
(観察・振り返り)